

2019年度ブラジル短期留学報告書

国際食料情報学部・国際食農科学科・48817051・鈴木武知

私は8/8~8/28日の約3週間、文部科学省の世界展開力事業の1つであるブラジル短期留学に行かせていただきました。私がこの留学に目的は大きく2つあり、1つ目は日本以外の国の農業や食文化について学ぶことです。私の所属する国際食農科学科では、主に日本の農業や食文化など学ぶ学科です。私自身、この留学に行くまでの2年半、日本の農家さんのお宅にファームステイさせていただいたり、日本の農業や食文化について実際に経験しながら知識を増やしてきました。日本の農業を学ぶうちに、逆に世界ではどのような農業をしているのか、どのような食文化があるのかといったことに興味を持ち始め、この留学をきっかけに、日本国内から視野を広げ、世界に目を向けていきたいと考えました。2つ目の目的として、日本の真反対であるブラジルで日本から移住した人々がその後日系人として、どのような生活してきたかを学ぶことです。例の1つとしてあげられる、アグロフォレストリーを中心にその生活を学びたいと強く考えました。

まず、最初の2,3日はブラジルのサンパウロ州サンパウロ市にある、農大のブラジル校友会館に泊まりました。サンパウロの気候は、季節的には冬で朝晩はかなり冷えるが日中は半そでがないと暑いくらいの寒暖差の激しい地域でした。そこでは、現地に移住した農大OBの方々が様々な場所を案内してくださいました。その中でも特に印象的だった場所は2か所あり、1カ所目は市場です。市場というと日本にも多く存在しますが、特に日本と違うと感じたところは、主に果物だがほとんどの品物を傷むことをあまり気にせずの上に積み重ねていたことです。日本では1つ1つフワフワした包装で包んでいるが、そのような手間はあまり見られませんでした。2つ目は、野菜においてすべてバラ売りをしていました。こちらにおいても、大体の重さに合わせて品質や形状の良いもの悪いものを均等になるように組み合わせている日本の売り方に比べて、好きな量、好きな見た目のものだけを買うことのできるブラジルの売り方の違いに興味を持ちました。このような販売スタイルから、日本はなるべく質の良いものを作ろうという農業に対して、ブラジルでは、広い面積で安くかつ大量に作ろうという農業に対する意識の違いを実感させられました。他にも、リベルダーヂという日本を中心とした東洋人街にも連れて行っていただいたのですが、そこでたくさんのブラジル人が日本の食べ物や製品に触れおり、現在の日本製品の技術の高さもそうだが、日本の文化や食べ物をしっかりと継承してきた日系人の方々にもとても尊敬の念を抱きました。また、日系移民資料館で日本移民の歴史を閲覧でき、多くの苦行を踏まえて今の日系社会があることを知り、さらに移民をされた人々のすばらしさに気づけました。

次に1週間ほどサンパウロ州ピラシカバ市でサンパウロ大学ピラシカバ校（ESALQ）での活動を中心に過ごしました。ここでは主にESALQで、どのようなことを学んでいるのか、また研究しているのかをESALQの生徒さんや先生と交流しながら様々なお話を聞きました。サンパウロ大学では、学校の紹介だけでなくポルトガル語も少しですが習いました。ブラジルに行く前に自分なりに少しは勉強したのですが、実際にブラジル人の会話には遠く及ばず少し悔しかったです。ですが、逆に今度はしっかりと会話できるようになると更なる意欲も出てきました。私たちも日本文化を紹介するワークショップを行い、書道をサンパウロ大学の学生に教えました。大学以外にも、近くの東山農場というコーヒー農場に行きました。この農場は、三菱財閥の岩崎家が経営しており、とても広い面積でコーヒーを栽培していて広大な土地を利用した海外の農業のやり方に準ずる栽培方法だと感じました。また、ピラシカバ市についても少し案内していただき、軽くピラシカバの歴史についても知ることができました。最後に、ピラシカバの日系人コミュニティが集まる場所に行きました。思っていた以上に多くの日系人がいてとても驚いたのと、カラオケがおいてあり、日本語のわからない子供から大人までもが日本の曲を熱唱していたところに、とても驚きつつも嬉しく思いました。そこでは日本の料理も多く食べさせていただき、私個人の感想として、ブラジルに住む日系人は日本に住む日本人よりも日本の文化を大切に、楽しんでいるように思いました。

ピラシカバの後は、ブラジルの北側へ飛んでパラ州のベレンへ行きました。ベレンでは半日、アマゾニア農業大学ベレン校に訪問し、先生、生徒、ベレンに住む日系人の方々と交流しました。農大に留学に来てた学生もいたり、とてもフレンドリーな方々が多く、楽しい時間を過ごすことができました。午後は、ベレンの南に位置し車で4時間ほど行ったところにあるトメアスーという地域で約1週間ほど過ごしました。ベレンやトメアスーの気温および気候は、7月~12月頃までが乾期となっており雨はほとんど降らず、気温は30~35℃ぐらいであった。しかし湿度が高いため日本の夏と大して変わりはありませんでした。トメアスーでは、アマゾニア農業大学トメアスー校とトメアスー農業協同組合、文化農業振興協会などを回りました。アマゾニア農業大学では、トメアスー校の構内見学と学生によるポルトガル語の授業、私たちによる日本の農業の発表を行いました。農協、文化協会ではそれぞれ担当の方からトメアスー農業状況や歴史について触れました。トメアスーは、コショウを始め日本では目にすることができないような熱帯果樹など、さまざまな種類の野菜や果樹を扱っていました。農協の組合長さんと対談していた時に、トメアスーおよびベレンの人々にとってアサイーはソルフードに近い食べ物だと聞いて、やはり熱帯の地域だなと改めて感じました。さらに驚いたことは、そのように地元愛の強いアサイーですが、食べるころはほとんどなく紫色の皮の部分の絞って食べているということです。私自身その話を聞くまでは、アサイーは知っていたが実はブルーベリーのような果肉が多いと思っていました。こういう風実際に現地で見て聞くほど勉強になるものはないと感じました。トメアスー文化農業振興協会では、現在行っている活動についてお話を聞きました。話によると、日本語学校の運営や、日本文化のイベント（敬老会や盆踊り

など)を行っており、日本以上に日本文化を尊重していて素晴らしい活動だと感じました。私たちは、アグロフォレストリーセミナーという2日間にもわたるシンポジウムにも参加させていただきました。1日目は、実際にアグロフォレストリー農業を行っている農家さん方によるアグロフォレストリーの説明がおこなわれました。すべてポルトガル語でのシンポジウムだったのでなかなか理解するのに難しかったです。パワーポイントの写真や移住した大西さんのガイドもあり、大体理解することができました。2日目は実際にアグロフォレストリーを行っている農家さんの農場を見学しに行きました。アグロフォレストリーはブラジルに行く前から事前学習等で知っていたが実際に見ると想像以上の面積と木の高さに驚きました。また、農場内は様々な木がきれいに並んで植わっており、作業の行いやすさにとっても気を使っているのだと気づきました。

シンポジウムが終わった日から3泊4日で農家さんの家に泊めていただくファームステイを行いました。泊めてもらうお宅はみんなバラバラで私がファームステイをさせていただいた小長野さん(日系1世)のお宅は、なんと860haの農地を持っており、その中で実際に栽培している面積は230haととても広大な面積で農業を行われていました。メインとしている作物はカカオで、日本のMEIJIと契約しており、日本でも小長野さんの農場でとれたカカオを使ったチョコレートを食べることができます。ファームステイ1日目は、小長野さんのお宅に移動して、一緒に晩御飯を食べながらお話をし、就寝しました。2日目は、午前中は農場で作業員さんと共に、カカオの収穫のお手伝いをしました。熱帯に位置するトメアスーは暑いのですが、アグロフォレストリーの下では木に覆われ日陰となるため、そこまで暑さを気にせず仕事ことができました。作業員さんにとってもアグロフォレストリーは直射日光に当たらずに済むため効率のアップを図れるのではないかと小長野さんもおっしゃっていました。私も同様に感じ、夏の暑い日本においてもこの農業体系は有効なのではないかと思いました。午後はトメアスー内の小学校へ小長野さんについていきました。3日目は、午前中に引率の先生が来て農場の案内に同行しました。お昼ごろからは、近くの川でメンバーとその農家さんとバーベキューを行いました。アマゾンの川はどこも濁っているイメージでしたがとてもきれいで透き通っている川で驚きました。4日目は、農家さんお別れをしベレンへ向かいました。ベレンを半日観光して翌日、帰路につき28日に無事日本へ帰ってきました。

今回の留学を通して学んだことは、まず農業の面から言うと、ブラジルの南では広大な面積を使った単一作物型農業(モノカルチャー農業)が主流で、北では面積は変わらないがアグロフォレストリーのように多品種を栽培する傾向があることがわかりました。南の農業では大型の機械による作業が多く、日本とは全く違った農業を見てとても良い経験となりました。北側も今まで写真でしか見たことのなかったアグロフォレストリーを自分の目で直接見ることができ、同様にとても良い経験となった。そのような北と南で農業に違いがあるように、生活水準も南は日本かのように便利できれいな先進国的環境でしたが、北ではやはり発展途上国的要素がまだまだあるなと感じました。今回見てきたものは世界から見ればほんの一部の農業や食文化だと思います。ですが冒頭でも申した通り、今

回の留学を機にそのほんの一部の知識を増やしていくきっかけとし、これからの学生生活、社会でその知識を増やし、生かせるように頑張っていきたいです。

持って行ってよかったもの

- ・ハンガー

持って行った方が良かったもの

- ・水着（川遊び用）

事前に勉強すべきこと

・アグロフォレストリーセミナーに行くならそれなりにポルトガル語を覚えておくとう理解が深まります。